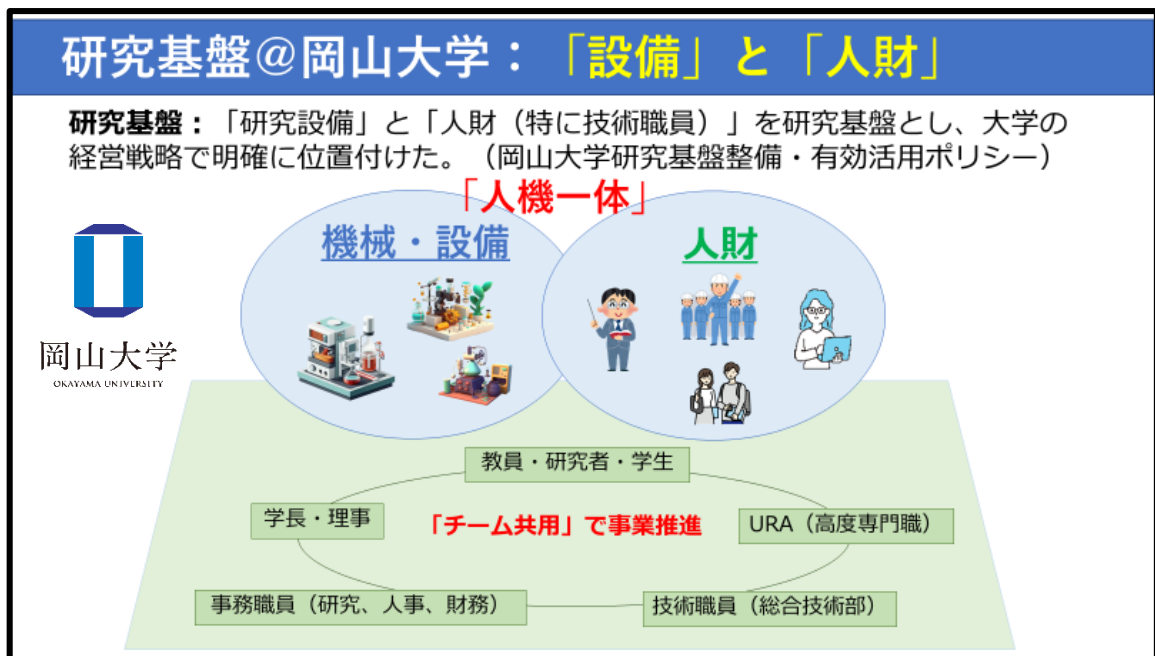


TOPICS

1

”人機一体”でイノベーション創出の知と技のメッカとなる
研究基盤整備を目指して

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、J-PEAKS事業では研究基盤の強化や先端研究設備の共用化を進めます。今回は、「人機一体での取り組みとチーム共用」についてご紹介します。



大学を支える事務職員や技術職員の「高度化」は、単なる研究力の強化にとどまらず、大学経営の改革も含んでいます。国や地域のニーズを先取りし、社会変革を担う研究ファーストの研究大学として、自らの変革は不可欠です。これまでの大学の既成概念や組織風土を根本から見直し、その変革の先陣を切ることが重要です。

また、単に岡山大学一大学の強化ではなく、地域の中核大学として、地域の研究機関や企業等を含む「知」と「技」のメッカとなることも重要です。その中核には、先端設備を核とした研究拠点の形成があり、人財（人材）と技術が融合する「人機一体」の体制を築くことで、より高度で創造的な研究やイノベーション創出等を可能にします。

本学では、研究者、事務職員、技術職員、URAなど職種の壁を越えた「チーム共用」体制で、取組を戦略的に推進することで、個々の研究室や部局等の枠を超えた協働体制を構築し、大学全体の研究力と対応力を飛躍的に向上させていきます。さらに、技術職員は、単なるサポート役ではなく、研究者の真のパートナーとして、技術面から研究をコンダクトする存在となるべく、更なる高度化を図り、技術力を駆使し、知識から新しい価値を創出し、社会を変革することのできる「ナレッジワーカー」として、新しい大学の姿と、地域社会の未来を共に創る存在となります。



総合技術部

共用機器に伴走し、学内外からの依頼測定や製作に技術面から研究をコンダクトできる職員を配置



<https://techall.okayama-u.ac.jp/>

全学共用機器を保有する研究・イノベーション共創機構附属自然生命科学研究支援センターや医学部共同実験室、工学部創造工学センター工作センターなどでは、サイテックコーディネーターや技術職員が設置されている機器に伴走し、学内外からの依頼分析・製作依頼や研究者自身が測定される際のフォローを行っています。ひとりで複数台の機器を担当しているため、「学生マイスター制度」や「テクニカルリサーチャー制度」などの岡山大学独自制度を導入し、研究者のリクエストに応えられる研究環境の整備も行っています。同制度は、従事する学部4年生や大学院生のスキルアップにも繋がり、修了後の将来を見据えた取り組みであり、本学の職員の業務を知るインターンシップの機能も備えているといえ、高度技術人材確保にも繋がっています。

また、総合技術部は、機器共用事業の統括部局として研究者の要望にコミットし、本学の研究力強化の一助となるべく、さらなる連携を強めるため、各課から機器共用事業に参画する技術職員を選出し、業務連携を行っています。一つの取組として、「研究設備マスタープラン」の策定にも参画しており、研究・イノベーション共創機構と強固な連携をしながら、チーム共用体制で取り組んでいます。さらに、研究設備を利活用すべく、様々な研究データの収集にも努めています。加えて、今年度計画のヘリウムリサイクル事業やSPRING-8&岡山大学&九州シンクロトロンとの連携などにもコミットしており、さらなる高度化を進めています。



参考：学生マイスター制度 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13134.html

参考：テクニカルリサーチャー制度 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14098.html



○那須保友学長のコメント

大学の研究力のみならず、わが国の科学技術・イノベーションを支えているのは研究基盤です。そして研究基盤を担うパーツは機器と人材です。機器は、大学に設置されている機器の老朽化のみならず、新規購入はおろか、修理費の捻出さえ難しい状況なのが現実です。本学では、このボロボロの状況をJ-PEAKSにより、大きく変える経営戦略をトップダウンで進めています。また人材は、「高度化」が重要です。最新の機器を揃えても、扱う人材が最新でなければ無意味です。また、研究は研究者が行うものではなく、チームとして技術職員を含めて行うものです。技術職員は「研究大学」を担う主体です。今後も研究ファーストの研究大学として、人機一体の強化を進めて行きます。どうぞ岡山大学技術職員らの主体的な取組にご期待ください。



J-PEAKS
世界に誇れる
研究大学の山脈を築く

TOPICS

2

総合技術部テクニカルリサーチチャー(TR)修了式と成果報告会を開催～地域中核・特色ある研究大学：岡山大学の技術力基盤強化と次世代技術人材の実践的育成～

本学総合技術部は、大学院生を技術補佐員として育成する「テクニカルリサーチチャー(TR)制度」の修了式と成果報告会を開催しました。

TR制度は、大学の技術力向上と学生の研究力向上を目的とし、次世代の技術者育成を目指しています。報告会ではTRによる成果報告が行われました。

J-PEAKS事業の一環でもあるTR制度を通じて地域社会に貢献し、未来を担う人材育成に積極的に取り組んでいます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14098.html

TOPICS

3

令和6年度TCカレッジ認定式および技術・研究支援発表会表彰式に総合技術部の技術職員が参加～初のテクニカルマスター(TM)に認定！～

「令和6年度TCカレッジ認定式」が開催され、檜崎正博技術専門職員(現・課長)と塚野萌美技術主任が、東京科学大学のTCカレッジ「医工系TCコース」初のテクニカルマスター(TM)に認定されました。また、中村有里技術専門職員は技術・研究支援発表会でTCカレッジ長賞を受賞しました。

本学ではJ-PEAKS事業を活用して、職員の高度化を推進しています。今後もTCカレッジを活用し、技術職員の育成と研究大学としての発展を目指します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14114.html

TOPICS

4

岡山大学－信州大学 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)連携シンポジウムを開催～水と植物・光エネルギーから社会変革の実現方略を先鋭化～

本学と信州大学は、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)連携シンポジウムをハイブリッド形式で開催し、100人以上が参加しました。

シンポジウムでは、両大学がJ-PEAKSで掲げる先端研究分野における親和性、特に信州大学の「水」と岡山大学の「植物・光エネルギー」を活用した研究強化について議論。研究発表や研究マネジメント施策の紹介を行いました。

本シンポジウムを通して、共同研究を加速させ、J-PEAKS事業で目指すビジョンに向けて取組を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14134.html

TOPICS
5

「第3回岡山大学地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)シナジーセッション～岡山大学クライオ電顕・トモグラフィワークショップ～」を開催～

「第3回岡山大学地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)シナジーセッション～岡山大学クライオ電顕・トモグラフィワークショップ～」を開催しました。

クライオ電子顕微鏡を活用して革新的な研究開発を行う産学の研究者5人の講演が行われ、クライオ電子顕微鏡などの最新の研究機器等の戦略的な整備や運用についても議論がなされました。今後もさまざまなステークホルダーとともに研究機器等を核とした社会変革の実現も推進していきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14135.html

TOPICS
6

岡山大学「大学院修学支援制度(2025年度前期)」認定式を挙行～博士号取得だけではなく修士号取得等の拡大支援を実施～

職員の大学院修学を支援する制度の2025年度前期認定式を挙行しました。対象は事務、技術、図書館職員に拡大され、博士号・修士号取得を目指す4人が認定されました。

本制度は、大学の長期ビジョン実現に向けた職員の高度化を目的とし、学費全額負担や学位取得後の優遇措置などを設けています。文部科学省のガイドブックにも好事例として紹介されており、今後も教員中心の経営から脱却するために、高度化された職員が研究大学を牽引する体制を目指しています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14159.html

TOPICS
7

本学機器共用ポータルサイト“CFPOU”にAI チャットボットを搭載

本学総合技術部は、機器共用ポータルサイト「CFPOU」にAIチャットボット機能を導入しました。国内でも先進的な取り組みで、学内外の研究者が会話形式で岡山大学の研究装置を検索できるようになります。

従来のキーワード検索やカテゴリ分類に加え、自然な質問への対応が可能となり、専門教職員への問い合わせ負担も軽減されます。今後は、AI問い合わせ結果からの直接予約、論文情報やメンテナンス情報との連携、英語化などを進め、研究者だけでなく企業や学外機関の利用者にも利便性の高い環境を提供することを目指します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14164.html

TOPICS
8

本学事務職員がURAスキル認定制度に認定！～研究専念環境構築に向けてURA機能の内製化を促進～

本学の河本雅紀研究・イノベーション共創管理統括部長、山本聖二研究協力課長が、研究マネジメント人材の認定制度「URAスキル認定制度」において「認定URA」を取得しました。今回の認定は、J-PEAKS事業で取り組む大学の変革を担う職員の高度化の一つです。

今後も、URA機能の内製化や、事務職員の多様な業務への挑戦を通じて、長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現に向け、取組を加速させます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14169.html

TOPICS
9

地域中核・特色ある研究大学の強化と岡山大学ビジョン2050の実現にむけて「人事基本方針」を公開しました

本学は、研究大学としての発展を目指し「人事基本方針」を公表しました。

全分野で博士号を持つ者を教員に採用し、准教授・講師の採用・昇任には原則博士号取得後15年以内(医学系は17年)の「15年ルール」を導入します。また、各教員の特性を勘案しつつ、本学全体としての教育研究パフォーマンスの最大化を図る観点から、教員の配置換を適切に実施するとともに、大学の指定する特定の業務に従事する「特定教員」の制度を積極的に活用することなども明確にしました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14206.html

TOPICS
10

令和6年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」採択大学の九州工業大学と意見交換会を開催

本学は、九州工業大学と「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に関する取り組みについての意見交換会を実施しました。

意見交換会では、九州工業大学からJ-PEAKSの取り組みの概要について紹介があり、J-PEAKS推進のための組織体制、予算の執行体制、大学院修学支援制度、広報推進体制、そして持続的な発展に向けた人事制度改革など、多岐にわたるテーマについて、両大学で活発な意見交換をしました。

本学だけに留まらないイノベーションの創出、我が国全体の研究力の発展等を牽引し、社会変革を実現させていきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14212.html

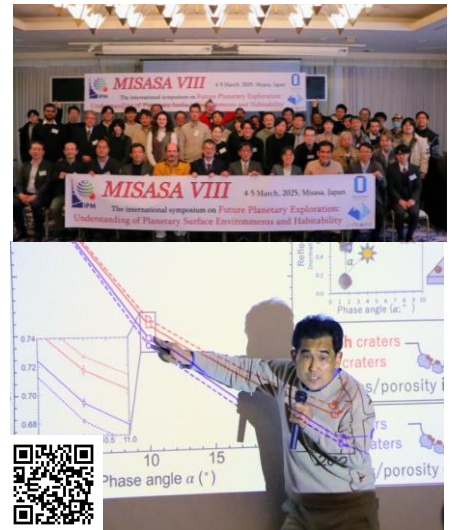
TOPICS
11

国際シンポジウム2025 MISASA VIII “Future Planetary Exploration: Understanding of Planetary Surface Environments and Habitability”を開催

本学高等先鋭研究院を構成する惑星物質研究所（鳥取県三朝町）は、国際シンポジウム2025「MISASA VIII “Future Planetary Exploration: Understanding of Planetary Surface Environments and Habitability”」（主催：本学高等先鋭研究院）を開催しました。

シンポジウムは、月面や火星表面といった地球外環境の理解に加え、そのような環境での将来の長期滞在の可能性を探ることを共通の目標としており、惑星科学に関連するさまざまな分野の研究者が最新の知見を持ち寄り情報交換しました。

J-PEAKS事業において、卓越研究の成果から地球規模の課題解決、地球外の活動も視野に入れた新技術開発の実現に取り組んでおり、本シンポジウムをとおして加速させます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14202.html

イチオシの研究設備



飛行時間型質量分析装置_compact

【監守者】

理学部	高村 浩由
工学部	光藤 耕一
農学部	仁戸田 照彦
薬学部	澤田 大介
分析計測分野	塩川 つぐみ

高精度LC-MS, LC-MS/MS分析が
より身近に

Compact は2024年度に導入された、岡山大学の中でも新しい装置です。

本装置は数pgオーダーの高感度測定と小数点以下3桁までの高分解能分析を両立したQTOF MS（四重極飛行時間型質量分析計）装置であり、MS/MS分析にも対応しています。学内のみならず学外にも開放されており、高精度質量分析、高精度MS/MS分析がより身近となりました。

さらに、付属の昇温加熱デバイス（ChemZo）を使用することで“固体”の測定と“温度帯ごとの成分分析”にも対応しています。

新たな分析のお供に、また一つ選択肢を提供します。

研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル（CFPOU）」の以下のURLから詳細を閲覧可能です。

J-PEAKSでは、大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しています。

本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1234>

